

第3次高松市創造都市推進ビジョンに
盛り込むべき事項及びその内容について
【答申】

令和5年10月30日

高松市創造都市推進審議会

目次

第 1 章 ビジョンの概要	1
1 ビジョンの目的（趣旨）	1
2 位置付け	1
3 ビジョンの期間.....	1
第 2 章 現状と課題	2
1 ビジョン策定以降のこれまでの主な取組.....	2
2 もたらした成果（効果）	4
3 外部環境の変化と課題	5
第 3 章 基本的考え方（施策体系）	8
1 基本方針・目指す将来像	8
2 目指す将来像の実現に向けた成果指標の設定	9
第 4 章 基本方針と取組の方向性	10
1 独創	10
2 未来	12
3 世界	14
第 5 章 ビジョンの推進	16
資料編	17

第1章 ビジョンの概要

1 ビジョンの目的（趣旨）

本市では、創造都市を推進するための総合的かつ基本的な指針として、平成25年10月に、産業、ものづくり、観光、文化・スポーツ、国際交流などに関する施策を一体的に推進することなどを定めた「高松市創造都市推進ビジョン（以下「第1次ビジョン」という。）」を策定しました。また、平成30年3月には、第1次ビジョンでの基本的な方向性は継続しつつ、本市の取組の特色の一つである「こども」や、本市のブランド力を更に高めるため、世界の中での高松の位置付けを強く意識した新たな施策・事業を加えた「第2次高松市創造都市推進ビジョン（以下「第2次ビジョン」という。）」を策定し、「瀬戸の都・高松」の魅力を全世界に発信してきました。

第2次ビジョンの策定から数年経ち、この間のコロナ禍を始めとする社会環境の変化や、創造都市推進施策に取り組む中で見えてきた課題等に対応した新たな指針として、これまでのビジョンで示した基本理念や目指す将来像といった基本的な方向性は踏襲しつつ、今後の取組の方向性を導く「3つの基本方針」を定めた「第3次高松市創造都市推進ビジョン」（以下「本ビジョン」という。）を策定するものです。

2 位置付け

本ビジョンは、第7次高松市総合計画に示す目指すべき都市像の実現に向け、産業経済施策、文化、観光、スポーツ施策及びその他関連施策を一体的に推進していく上で、本市の創造都市の実現に向けた総合的かつ基本的な指針として位置付けます。



3 ビジョンの期間

本ビジョンの期間は、上位計画である「第7次高松市総合計画」との整合性を図るため、令和6（2024）年度から令和13（2031）年度までの8年間とします。

ただし、中間年に、必要に応じて内容の見直しを行うこととします。

第2章 現状と課題

1 ビジョン策定以降のこれまでの主な取組

本市では、平成24年4月に創造都市推進局を設置し、平成25年10月に第1次ビジョンを、平成30年3月に第2次ビジョンを策定し、「こども」、「工芸」、「食」、「交流」の4つのプロジェクトの下、創造都市高松の実現に向けて様々な施策に取り組んできました。

「こども」プロジェクトでは、「恵まれた地域資源の中で創造力を育む」をテーマに、主に、本市の未来を担う子どもたちの創造性を育む取組を行ってきました。「こども」プロジェクトを代表する事業である「芸術士派遣事業」では、芸術士が、市内の公私立の保育所・こども園・幼稚園に出向き、子どもたちと造形活動や身体表現など、様々な表現活動を行っています。また、令和5年度からは、スポーツ指導の専門対象である「スポーツ士」を市立保育所等に派遣する「スポーツ士派遣事業」を実施しており、運動遊びを通して体を動かす楽しさを味わう機会の提供を行っています。

平成28年11月にオープンした「たかまつミライエ」にある「こども未来館」では、「こども未来館わくわく体験事業」を始めとした、子どもの夢や想像力を育み、健やかな成長に資するような体験イベントなどを多数実施しています。



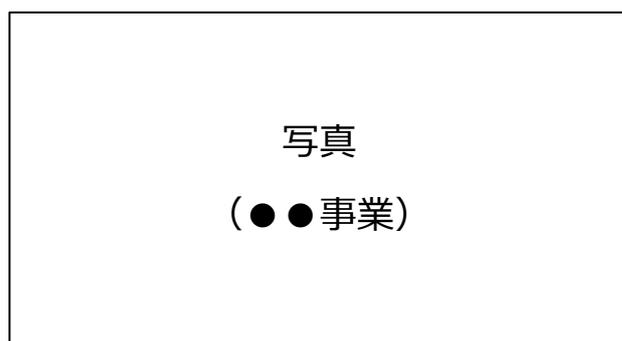
「工芸プロジェクト」では、「伝統・芸術・デザインのかで新しい未来を拓く」をテーマに、主に、伝統的な技術や作品を、本市の魅力の一つとして、国内外に向けて発信するとともに、国内外への販路開拓や次世代を担う人材の育成に取り組んでいます。

中でも、「高松盆栽」は、今や、世界から高い評価を得ており、ヨーロッパやアジア各国からバイヤーが、松盆栽の国内最大の生産地である鬼無・国分寺地区に訪れています。また、令和2年4月に同地区にオープンした「高松盆栽の郷」では、拠点施設として、国内外から来訪する盆栽愛好家や観光客に向けて、盆栽の販売や体験教室、各種イベントを開催し、その魅力を発信するとともに、生産者から直接学べる「技術研修」を行うなど、後継者育成にも取り組んでいます。



「食プロジェクト」では、「豊富な食文化と異文化との融合」をテーマに、食の観点から、農畜水産業や工芸、観光等に係る課題解決へのアプローチを行うとともに、健康、食育、異文化融合など、多元的な観点から食を捉えることで、複合的な社会問題の解決を目指しています。

高松市中央卸売市場・高松市公設花き地方卸売市場では、卸売市場の鮮度の高い情報の発信や商品販売の手段として WEB サイトを開設するほか、壁面アートやイベントなどを実施することにより、市民により親しまれ、開かれた、活力ある市場づくりに取り組んでいます。中でも、関連商品売場棟・加工水産物棟の「うみまち商店街」には、飲食店や菓子店など、個性豊かなお店が集まり、観光客からも注目を集める施設となっており、生鮮食品等の流通拠点施設としてだけでなく、本市の食文化発信の中心地となっています。



「交流プロジェクト」では、「地域のコトを通して世界的な交流へ」をテーマに、様々な取組を行ってきました。令和4年8月にオープンした屋島山上交流拠点施設「やしまーる」は、本市の財産とも言える、屋島及びその周辺の自然や歴史、文化等の魅力を幅広く発信し、観光的な側面と文化的な側面を合わせ持つ屋島の情報発信拠点となる施設として、にぎわいを見せています。

また、現代アートの祭典である「瀬戸内国際芸術祭」や「高松国際ピアノコンクール」を始めとした文化芸術分野における国際的なイベントの開催、スポーツの分野においても「サンポート高松トライアスロン」や平成29年に完成した「屋島レクザムフィールド（高松市屋島競技場）」を舞台とした「ジャパンパラ陸上競技大会」、カマタマーレ讃岐等、4つの地域密着型トップスポーツチームとの交流など、「一流」と触れ合うことができる機会を提供することで、より多くの、多様な人々との交流を深めています。



2 もたらした成果（効果）

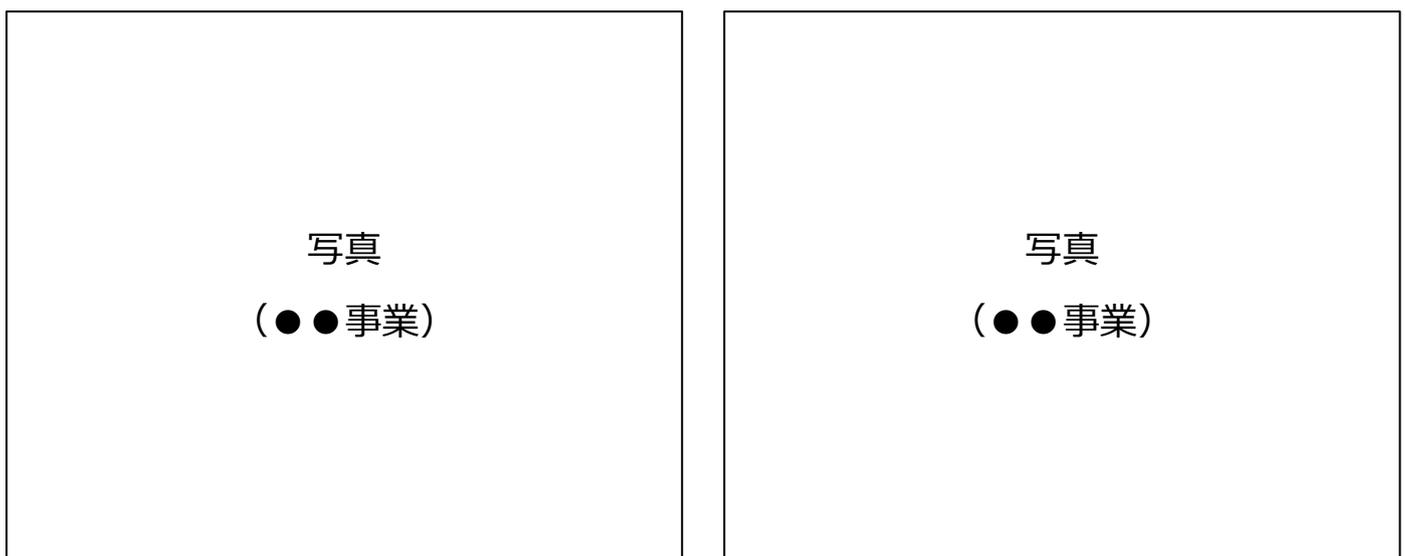
このように、第1次ビジョン策定以降、文化芸術と産業の融合を意識した、創造的な取組を約10年かけて継続してきたことで、本市のブランドイメージは確実に向上してきました。特に、近年、海外から注目を浴びるなど、世界から選ばれる「世界都市・高松」へと成長しつつあります。

瀬戸内海の島々を舞台に開催される現代アートの祭典である「瀬戸内国際芸術祭」は、「海の復権」をテーマに掲げ、美しい自然と人間が交錯し交響してきた瀬戸内の島々に活力を取り戻し、瀬戸内海が地球上の全ての地域の「希望の海」となることを目指し、2010年から3年に1度開催しています。平成22年の第1回開催時には、約94万人の来場者のうち、約1%程だった外国人来場者の割合は、令和元年には、約23.6%まで上昇し、日本を代表する芸術祭の1つとして、国内のみならず、海外からも高い評価を得ています。

また、本市の取組の成果として、様々な波及効果が生まれており、例えば、高松港に寄港するクルーズ船の数は、平成28年度から令和元年度までの間で、約3倍に増加しました。令和5年7月には、日本で初めて、「G7香川・高松都市大臣会合」が開催され、「世界都市・高松」としての存在感は増すばかりです。

さらに、旅行予約サイト世界大手のブッキングドットコム（オランダ）が発表した「2020年に訪れるべき目的地TOP10」に、本市が国内の都市で唯一選出され、また、旅行価格比較サイト「スカイスキナー」が発表したアジア太平洋地域の2020年の旅行トレンドにおいて、注目すべき新興目的地のTOP10に、日本で唯一、「高松」が選ばれました。

また、令和2年版観光白書（観光庁）によると、香川県の外国人延べ宿泊者数の伸びが平成24年から令和元年で1.6倍（全国平均は3.9倍）と全国1位の伸び率となりました。香川県を訪れる外国人旅行者は、日本滞在中の消費額のうち約2.5%が香川県内での消費で、四国の他県に比べ高い結果となっています。美術館や自然景観等のコンテンツが誘客につながることで、これらが主目的地となり、長期滞在が促されているとの分析が紹介され、本市が世界から選ばれる「世界都市・高松」として、注目を集めています。



創造都市高松は、世界から選ばれる「世界都市・高松」へ

3 外部環境の変化と課題

一方で、私たちを取り巻く社会環境は、技術の進歩や国際情勢の変化、予期することのできない感染症の拡大など、日々、目まぐるしく変化しており、文化芸術活動や経済活動に多大かつ甚大な影響を及ぼしています。私たちには、常に、その環境の変化に対応し、あらゆる手段を講じながら、活動を続けていくことが求められています。本ビジョンでは、第2次ビジョン以降に生じた外部環境の変化に対応できるよう、「新たな視点」を持ち、基本的な方針や取組の方向性に反映させます。

① 新型コロナウイルス感染症の感染拡大とデジタル化の進展

令和2年から流行した新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に、世界各地に流行を引き起こし、世界中の社会・経済活動に大きな影響を与えました。日本においても、緊急事態宣言による行動制限の長期化等により、文化芸術、観光、スポーツ分野や産業経済分野における、市民や事業者の活動は大きな影響を受けました。対面で行っていた様々な活動は、中止や制限、非対面化での実施を余儀なくされ、人々のこれまでの価値観や行動を大きく変えることとなり、コロナ禍で根付いた「新しい生活様式」は、収束後においても、引き続き、取り組まれています。特に、コロナ禍で著しく進展したデジタル化は、対面を前提としていた取組をオンラインでつなげることにより、非対面で行うことが可能になるほか、生成AIの登場やバーチャル技術の進展は、多岐にわたる分野で革新をもたらしました。

今後のポストコロナ社会では、デジタル技術を積極的に活用することによって、これまでの既存システムやビジネスモデルを革新し、活動内容やサービスなどを更に向上させ、新たな展開を創出していく必要があります。

② 人口減少、少子・超高齢化社会の更なる進行

国全体で、人口減少が課題となる中、本市の人口も、平成27年を境に減少に転じた一方、高齢者（65歳以上）の人口は、増加傾向にあります。また、少子・超高齢化社会の進行により、労働力不足だけでなく、文化や芸術、伝統を受け継ぐ人材の減少が問題となっています。

第2次ビジョンでは、「こども」により着目し、アプローチをしてきましたが、その方向性は継承しつつ、「こども」に加えて、今後は、若者世代や働き世代、高齢者世代を含めた、全世代に向けて、創造都市推進施策をアプローチし、全世代型で推進していく必要があります。

③ グローバル化の進展、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）の発達・普及

ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）は急激な発達を遂げ、誰でも気軽に情報発信ができる、私たちの身近なツールとして、無くてはならないものになりました。また、2023年には、本市で、「G7香川・高松都市大臣会合」が、2025年には、大阪・夢洲で、「日本国際博覧会（大阪・関西万博）」が開催されるなど、様々な国際的なイベントが身近で開かれており、経済・文化の両面から、世界と結びつく機会が増加しています。

今後は、それらの機会を捉えて、世界と気軽につながることができる各種SNSを活用しながら、世界から選ばれる「世界都市・高松」を、より多くの人々へ発信していく「グローバル戦略」を持つ必要があります。

④ SDGs・グリーントランスフォーメーション（GX）の取組

2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際社会の共通の目標であるSDGsの達成に向け、文化芸術等が果たす役割は大きいものになっています。また、近年では、化石燃料中心の産業構造や社会構造を、太陽光や風量などのクリーンなエネルギーを中心とする構造へ転換する「グリーントランスフォーメーション（GX）」の取組が加速化しており、その取組が、産業界における競争力に直結する時代になりつつあります。

SDGsやGXの推進により、文化や経済を発展させながら、地球で暮らす全ての人々の未来に貢献することが可能となります。

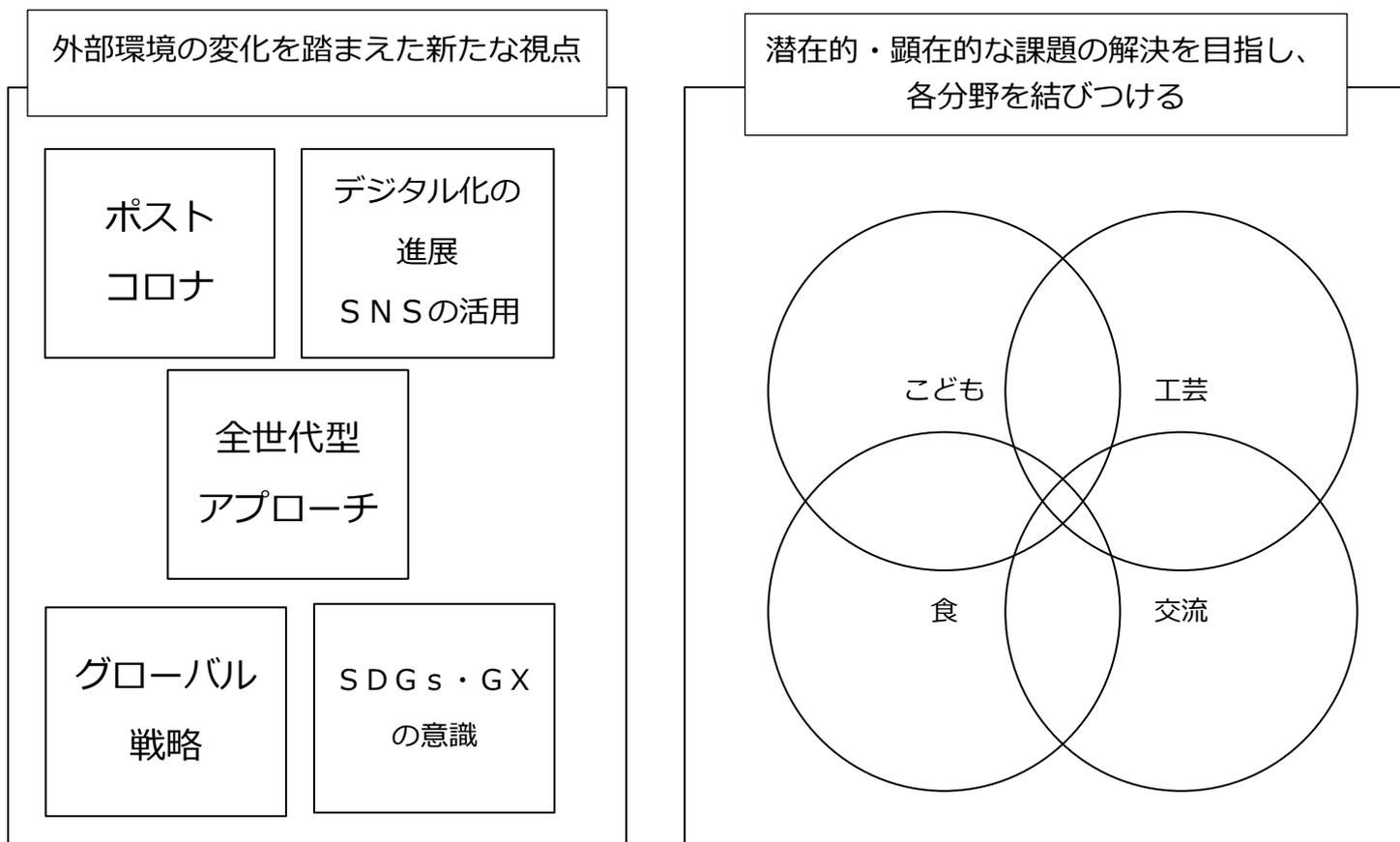
今後における本市の創造都市推進施策の実行に当たり、持続可能で、かつ、環境に配慮した取組を通じて、文化芸術活動や経済活動を更に成長させていく必要があります。

また、第2次ビジョン策定時から継続している課題や、施策に取り組む中で見えてきた課題もあります。

第2次ビジョンでは、「こども」、「工芸」、「食」、「交流」の4つのプロジェクトを中心に様々な取組を進めてきましたが、子どもたちの芸術に触れる機会や表現活動を行う機会を引き続き確保していくことが重要です。

そして、伝統産業や農畜水産業では、後継者不足や従事者の高齢化が深刻になりつつあり、それらへの対応は待ったなしです。魅力あるイベントや本市ならではのブランドを広く普及啓発し、認知度を上げ、効果的に情報発信を行うことで交流人口の拡大を更に進めていくとともに、関連企業等や年代や国籍、性別を問わず、あらゆる人が活躍できるような環境の整備などの施策を充実させていく必要があります。

その際には、各事業や取組を縦割りで実施するのではなく、例えば、「こども×工芸」、「食×交流」など、各分野を結びつけて実施することで、協働や連携が創出され、産業経済施策と文化・観光・スポーツ施策をより一体的に推進することが求められます。



第3章 基本的考え方（施策体系）

1 基本方針・目指す将来像

【基本理念】

魅力にあふれ、人が輝く創造都市

基本理念の下、以下の将来像を目指します。

自然や歴史、生活と結び
ついた「芸術指数」が高い
まち

交流で新たな発見がある
「クリエイティブな暮らし」
にあふれたまち

豊かな生活が実現でき
るコンパクトなまち

本市の目指す将来像の実現のため、

外部環境の変化や第2次ビジョン下での課題を踏まえ、

「3つの基本方針」 を定め、連動・連携させながら、各施策を一体的に推進します。

独創

市民が誇りにできる、独創的な高松ブランドを創出し、持続的に発展させます

未来

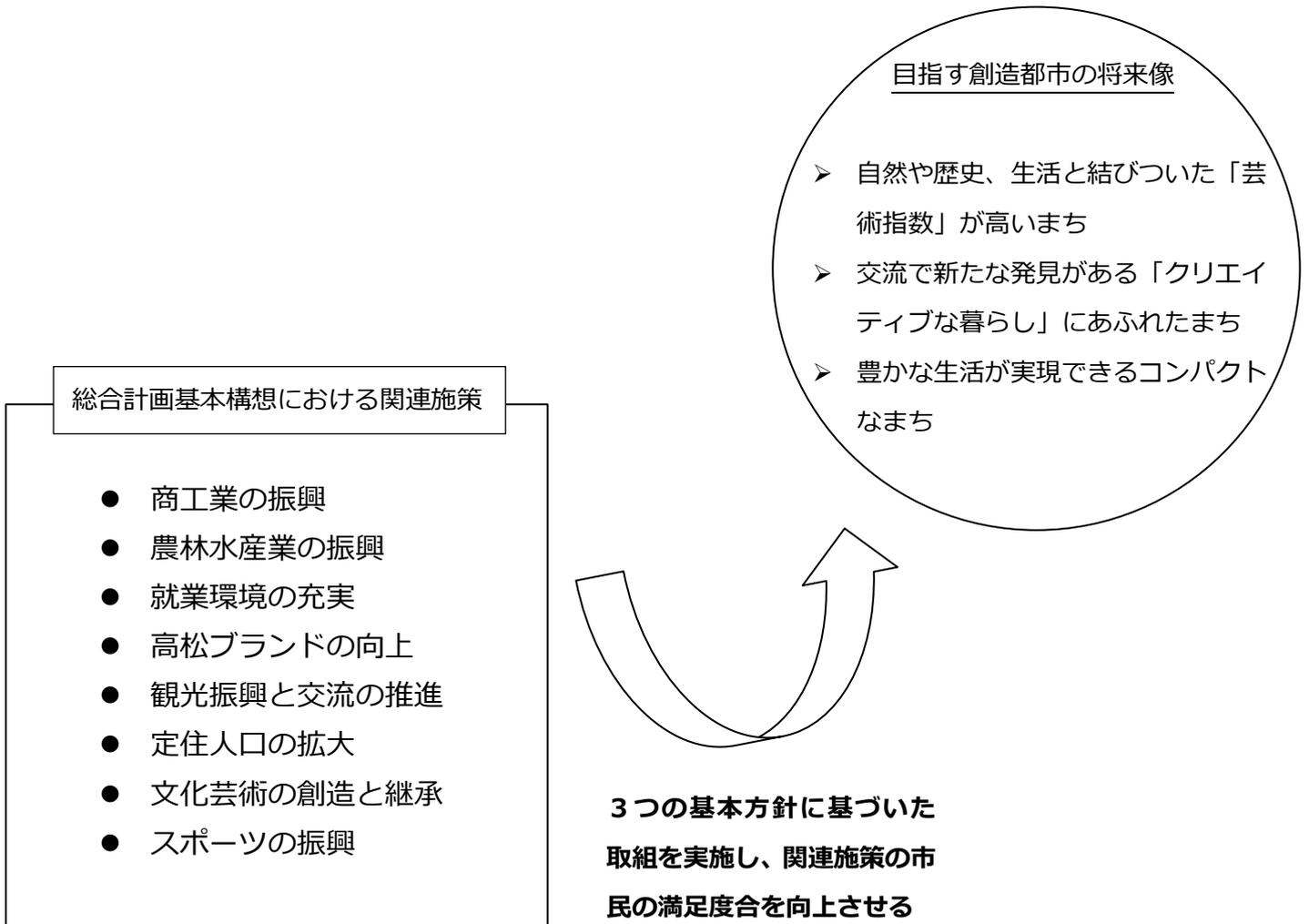
未来に向けて、高松らしい産業や文化芸術を次世代に継承させます

世界

高松の魅力を世界に発信し、「創造都市 高松」を確立させます

2 目指す将来像の実現に向けた成果指標の設定

本市が目指す「創造都市の将来像」の実現に向けた各種取組の成果を確認するため、毎年実施している本市総合計画基本構想の各施策に対する市民の満足度合を測るアンケート調査のうち、本ビジョンに関連する項目を成果指標に設定し、その指標が向上していくことを目指します。



第4章 基本方針と取組の方向性

独創

市民が誇りにできる、独創的な高松ブランドを創出し、持続的に発展させます

本市には、先人たちが大事に引き継いできた、伝統工芸や食文化、伝統芸能、文化財、地域のお祭りなどがあり、私たちの現代の暮らしの中にも根付いています。さらに、高松には多島美を誇る瀬戸内海と緑豊かな自然環境が共存しており、これらは大都会にはない、大変魅力的な資源です。これらの伝統や歴史・文化、自然景観、生活などが、結びつくことで、本市でしか味わえない体験や交流、本市にしかない製品や表現を、独創的な高松のブランドとして提供することができます。また、デジタル技術やAI技術の活用により、これまでの既成概念を覆すような、創造性あふれる、先進的で革新的な取組が生まれる可能性も秘めています。

他には真似ることができない、本市ならではの地域資源を活用するとともに、時代の変化に対応した、独創的な高松ブランドを創出し、持続的に発展させ、市民の高松に対する誇りや愛着づくりにつながるような取組を推進していきます。

また、それらの取組を行政だけではなく、様々な関係者が主体的に関わり、連携していく体制づくりや市全体の機運の醸成を図っていくことで、ユネスコ創造都市ネットワーク(UCCN)への加盟申請に向けた土壌を整備していきます。

取組の方向性

● 高松に根付く素材・技術・デザインの再発見と持続的な活用

本市で暮らすことで、その魅力に気づけていない、地域のお祭りや歴史的人物、伝統工芸、アート、食文化、自然景観など、高松に根付く素材・技術・デザインを再発見し、高松ブランドの創出を行うとともに、その持続的な活用を図ります。

写真

(〇〇〇〇事業)

写真

(〇〇〇〇事業)

- デジタル化やSDGsなどの時代の変化を捉えた、新たな取組・創造的人材の活動・ものづくりの支援

産業分野や農業分野でのデジタル技術の活用を促進するほか、地域社会の課題解決やカーボンニュートラルの実現などに向けての取組を支援します。



(〇〇〇〇事業)



(〇〇〇〇事業)

- 高松らしさがあふれるコンテンツの創出

話題性のある、観光・情報・デジタルコンテンツを作成し、本市を訪れる人々にとって、本市でしか味わうことができない体験や交流を創出していくことで、地域の活性化や観光振興に寄与し、地域経済の発展に貢献していきます。



(〇〇〇〇事業)



(〇〇〇〇事業)

- 業種や世代の垣根を超えた、ゆるやかな連携による協働の実施

固定観念にとらわれない新たな方法で課題解決に取り組むことができる芸術家や職人等の「創造的人材」同士、或いは「創造的人材」と市民や行政とが、職業や国籍、性別、世代を超えて、つどい、そしてつながり、連携して、創造的な活動を行うことを支援します。



(〇〇〇〇事業)



(〇〇〇〇事業)

未来

未来に向けて、高松らしい産業や文化芸術を次世代に継承させます

本市では、「芸術士派遣事業」の実施や「たかまつミライエ」の整備、高松盆栽や香川漆器、庵治石などの伝統的ものづくりに触れる機会や、地域密着型トップスポーツチームとの交流機会の提供など、数多くの「こども」の創造力を育む事業に継続して取り組み、子どもたちの感性や創造力を育んできました。また、本市には、暮らしの中で、文化、芸術、スポーツ等を実感できる機会が数多く存在し、サンポート高松や高松中央商店街等を舞台に、アートや音楽、スポーツに関連した各種イベントや国際大会が開催され、多くの、あらゆる人々が文化芸術活動等に触れています。

しかし、人口減少・少子超高齢化社会が進展するとともに、地域社会とのつながりの希薄化など、子どもや子育て家庭は孤立しやすく、子育て世代を支援しながら、本市の未来を担う子どもたちの創造性を育む場の重要性はますます高まっています。また、伝統工芸や伝統芸能などの分野では、後継者不足や担い手不足が表面化しており、技術や技能の継承・伝承が途絶えてしまうおそれがあります。

今後は、子どもや親、働き世代、高齢者などの全世代が、気軽に、高松らしい産業や文化芸術に触れることで、本市の歴史や伝統・文化などの魅力や価値の再認識を図るとともに、次世代に継承させます。

取組の方向性

- 文化芸術や伝統芸能等、子どもが「ほんまもん（本物）」に触れる機会の充実を通じた、創造力を育む取組の推進

子どもの発達段階に応じた多様な興味・関心に応えることのできる環境整備のほか、「芸術士派遣事業」や「スポーツ士派遣事業」など、子どもたちが「ほんまもん（本物）」の文化芸術やスポーツ、伝統芸能などに触れられる機会を充実させることで、子どもたちの創造力を育む取組を推進します。

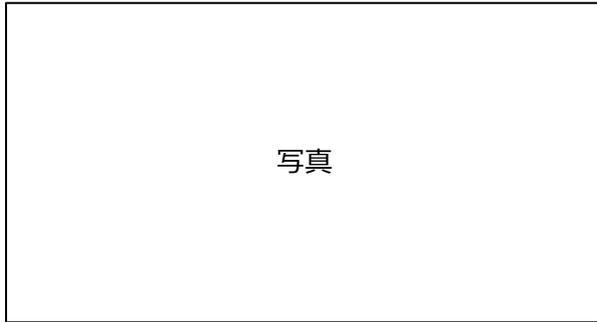
写真

(〇〇〇〇事業)

写真

(〇〇〇〇事業)

- あらゆる人が、暮らしの中で、文化芸術、スポーツ等を実感できる仕組づくりや事業の推進
本市に集う全ての人々が、性別、年齢、国籍、障がいの有無等の区別なく、暮らしの中で、文化芸術、スポーツ等を実感できる仕組や事業を推進していきます。



(〇〇〇〇事業)



(〇〇〇〇事業)

- 歴史や伝統、文化等の承継と活用

高松のシンボルである「屋島」や塩江地域の再活性化、高松城跡（玉藻公園）や石清尾山古墳群を始めとする文化財の保存活用、国の伝統的工芸品「香川漆器」のPRなど、地域に、脈々と受け継がれてきた歴史・文化を承継し、未来に向けて、持続的に活用します。



(〇〇〇〇事業)



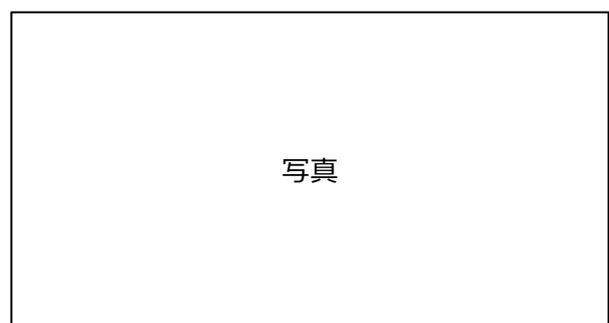
(〇〇〇〇事業)

- 「つなぐ」人材の育成・支援

香川漆器や庵治産地石製品を始めとする伝統的工芸品を未来に残すために、次世代の人材の育成だけでなく、伝承する人材（現在の担い手）も支援し、伝統を未来へ「つなぐ」人材を育成します。



(〇〇〇〇事業)



(〇〇〇〇事業)

現代アートの祭典である「瀬戸内国際芸術祭」や「高松国際ピアノコンクール」、「サンポート高松トライアスロン」を始めとした国際的イベントの開催など、国内外に発信力のある文化芸術やスポーツに関する取組が定着し、世界から注目される都市へと発展しつつあります。また、イベントに限らず、高松のシンボルである屋島地区の活性化や、サンポート高松周辺地域での施設整備などの開発が進むことで、高松のブランド力は、より一層向上することが見込めます。

その機会を捉え、本市の美しい自然環境や歴史的文化財、讃岐うどんなどの地域性豊かな食文化や、伝統的工芸品や特産品などの魅力ある地域資源を、効果的かつ積極的にプロモーションするとともに、その集客力を観光分野や産業経済分野などのその他の分野に広げていくことが求められます。

常に世界の中の高松を意識しながら、本市の魅力を発信し、より注目を浴びることで、「創造都市 高松」を確立させていきます。

取組の方向性

● SNSやメディア等を活用した効果的な情報発信

SNSやメディア等を活用し、常に世界の中の高松を意識しながら、積極的に情報発信を行います。また、情報発信を通じて、多くのあらゆる人々が本市に興味を持ち、訪れることで、地域の経済活性化や交流の促進を図ります。



写真

(〇〇〇〇事業)



写真

(〇〇〇〇事業)

● 「Made in Takamatsu」の積極的なプロモーション

高松で創られた「Made in Takamatsu」である、香川漆器や庵治産地石製品を始めとする伝統的工芸品や特産品、「高松盆栽の郷」を拠点とした日本一の松盆栽産地、「高松産ごじまん品」を始めとした地場産農畜水産物などの魅力を積極的に発信し、国内外の方に知ってもらう機会を創出し、新たな市場の開拓を目指します。



(〇〇〇〇事業)



(〇〇〇〇事業)

● 多様性を尊重した、世界との交流の促進

セント・ピーターズバーグ市（アメリカ）、トゥール市（フランス）、南昌市（中国）、及び基隆市（台湾）といった国外の姉妹・友好都市や交流都市との相互訪問や、オンライン形式も含めた交流事業等を通して、異なる文化や習慣などの多様性を尊重しながら、相互理解を促進します。

また、高松空港の国際線の充実に伴い、今後もインバウンド客の増加が見込まれることから、世界から選ばれる観光地となるために、香川県とも連携し、積極的なプロモーションを展開します。



(〇〇〇〇事業)



(〇〇〇〇事業)

● 国際的イベントの開催等の世界を意識した取組の推進

「瀬戸内国際芸術祭」や「高松国際ピアノコンクール」等の国際的なイベントの開催、MICE振興による国際会議の誘致、ユネスコ世界ジオパークへの認定を目指す取組を推進するなど、世界の中での存在感を高めていきます。



(〇〇〇〇事業)



(〇〇〇〇事業)

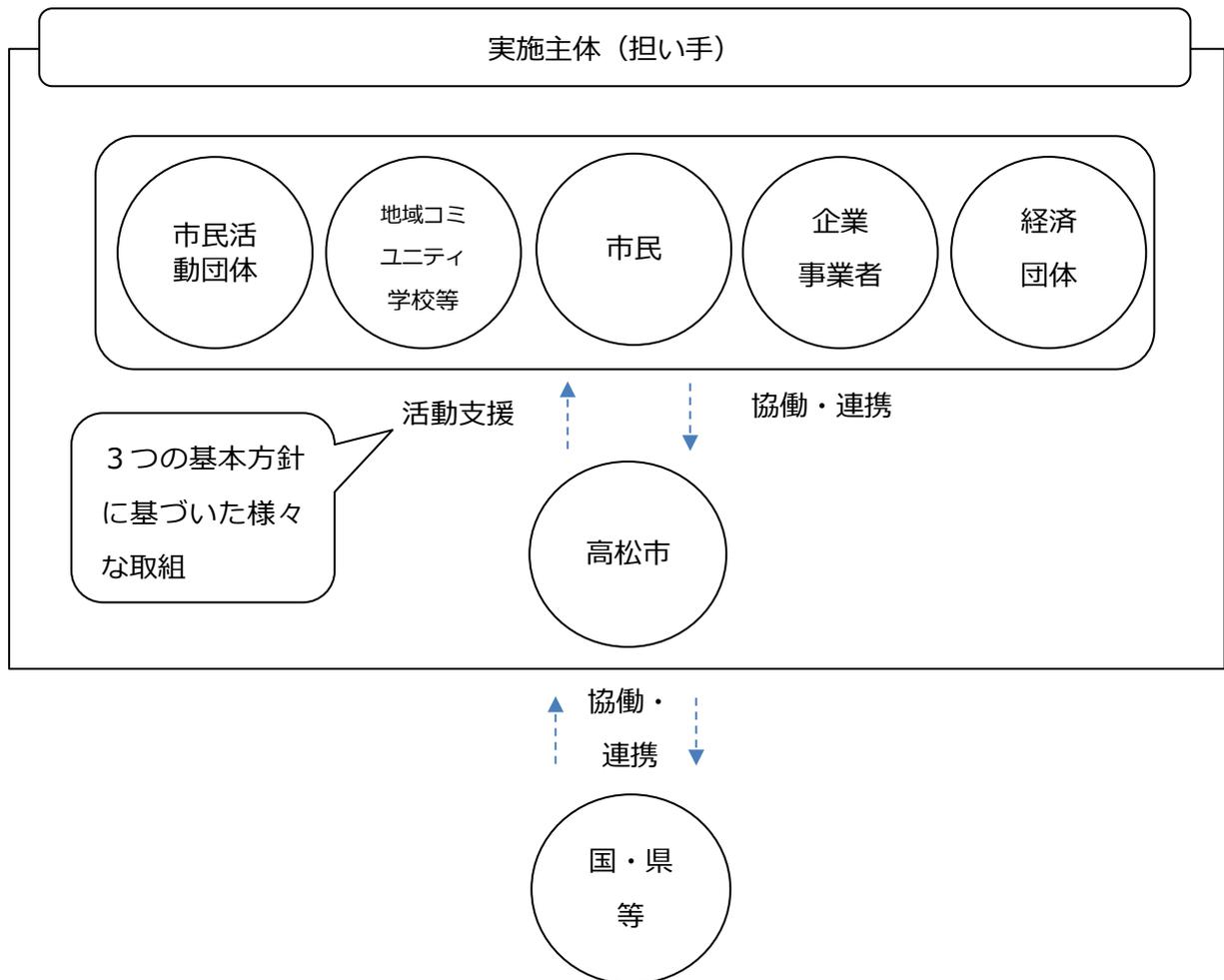
第5章 ビジョンの推進

本市では、平成24年4月に設置した創造都市推進局の下、産業経済部と文化・観光・スポーツ部の2つの柱で、各分野における施策を、ビジョンの方針に基づきながら、一体的に推進してきました。

有識者や各分野の代表者などで構成する「高松市創造都市推進審議会」においては、ビジョンに基づくプロジェクトの分析や、創造都市の推進過程における御意見を、40歳未満の創造性をいかしたまちづくりに資する活動を行う者などで構成する「高松市創造都市推進懇談会」においては、民間と行政が交流し、意見を出し合える場を作り、民間から出たアイデアを活用する仕組みを設けるなど、産学官民が一体となって、それぞれの役割を果たしながら、取組を進めていきます。

また、今後、本ビジョンで示した「3つの基本方針」に基づいた様々な取組を通じて、市民や企業等の実施主体（担い手）の活動を支援するとともに、本市も実施主体として、担い手や国、県等と協働・連携しながら、各種施策を推進していきます。

さらに、創造都市ネットワーク日本（CCNJ）を通じて、創造都市間の連携・交流を図り、施策を発展していきます。



資料編

(略)

- ・ 高松市創造都市推進審議会（第6期）委員名簿
- ・ 高松市創造都市推進懇談会（第6期）委員名簿
- ・ 答申文
- ・ 審議過程

等

2024 – 2032